

# 県議会 とちぎ



2011年11月20日

No. 101

編集・発行 栃木県議会  
〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20  
TEL 028-623-3772  
FAX 028-623-3755  
E-mail gikai@pref.tochigi.lg.jp  
HPアドレス http://www.pref.tochigi.lg.jp/p01/kengikai

## 第308回定例会(平成23年9月)

### 総額66億9,924万円の

## 平成23年度一般会計補正予算(第6号)を可決

第308回県議会定例会は、9月20日から10月14日まで、25日間の会期で開かれました。開会日には福田知事が提出議案の説明等を行い、9月26日から28日まで、上程議案及び県政全般に関する質疑・質問が行われました。また、10月4日には予算特別委員会総括質疑が行われました。

本定例会では、知事から提出があった19議案(予算4件、条例6件、その他9件)と議員から提出があった5議案(意見書4件、決議1件)が原案どおり可決されました。また、請願・陳情については、1件が継続審査となりました。なお、1件は取り下げが承認されました。

また、平成22年度決算にかかる認定7件については、9月28日に設置された決算特別委員会に閉会中の継続審査として付議されました。

### 可決された主な議案

- 平成23年度栃木県一般会計補正予算(第6号)
- 栃木県スポーツ推進審議会条例の制定について

### 可決された意見書・決議

- 円高・デフレを克服する経済対策を求める意見書
- 中小企業金融円滑化法に基づく実効ある措置を求める意見書
- 風評被害の払拭等に向けた支援を求める意見書
- 八ッ場ダム建設事業の早期完成を求める意見書
- 東日本大震災に際し被災地で活動する自衛隊等及び諸外国に感謝する決議



## 第308回定例会 代表・一般質問者及び質問項目

<p>六五 食と農林業の再生強化 企業局の事業展開 税務の見直し とちぎの元気な森づくり県民</p> <p>四三 県有林の活用 放射線被害対策 放射線被害者への対応 放射線に関する教育</p> <p>二一 知事の政治姿勢 東日本大震災及び福島第一原発事故対策 放射線物質が検出された溶融スラッグの保管・処分 農産物の放射性物質による被害対策 震災時における難病患者への対応 防災及び放射線に関する教育</p>	<p>六五四三二 児童虐待防止対策 E.V.P.H.V.タウン構想の推進 スマートビレッジの推進 農地・水環境の保全対策 今後の県立高等学校入学者選抜制度の在り方</p> <p>一 災害に強い「とちぎづくり」体制の確立 地域防災計画の見直しと組織体制の確立 財政運営の見直し 地域防災ネットワークの構築 学校における放射線の理解促進 減災の視点からの河川砂防施設の整備 輸血用血液製剤及び医薬品等の供給体制 児童虐待防止対策</p>	<p>八 校入試制度 とちぎの教育の推進と県立高</p> <p>七 警察署の整備と機能確保及び交番等の再編整備</p> <p>六 医療の充実と地域医療再生計画</p> <p>五 震災を踏まえた社会資本整備</p> <p>四 経済成長戦略と企業誘致</p> <p>三 風評被害対策と健康不安への対応</p> <p>二 総合的なエネルギー政策の推進</p> <p>一 震災後の県政運営</p>	<p>八 緩和ケア 大規模地震発生時の初動体制 精神疾患患者の救急医療体制 次期県立病院改革プランの策定 特別支援学校への専門職の配置 介護職員の確保 看護職員の確保 医師の確保</p> <p>七 障がい施設・事業体系の再編 発達障害児やその家族への支援の充実</p> <p>六 発達障害児への支援 及不妊治療に対する支援</p> <p>五 少子化対策としての不妊治療</p> <p>四 「県民の命を守る河川砂防構想」</p> <p>三 男女共同参画の推進</p> <p>二 福島第一原発事故の風評被害払拭等による観光地の振興</p> <p>一 地方分権改革</p>	<p>九 安全・安心の確保 高等特別支援学校の整備 「とちぎまるショップ」の効果的な活用 安全・安心の確保</p> <p>八 安全・安心の確保</p> <p>七 安全・安心の確保</p> <p>六 マスコットキャラクターを活用した県のイメージアップ</p> <p>五 地域医療体制の整備</p> <p>四 合併推進に関する県の対応</p> <p>三 企業誘致の推進</p> <p>二 再生可能エネルギーの推進</p> <p>一 被災地住民に対する支援</p>	<p>九 安全・安心の確保 高等特別支援学校の整備 「とちぎまるショップ」の効果的な活用 安全・安心の確保</p> <p>八 安全・安心の確保</p> <p>七 安全・安心の確保</p> <p>六 マスコットキャラクターを活用した県のイメージアップ</p> <p>五 地域医療体制の整備</p> <p>四 合併推進に関する県の対応</p> <p>三 企業誘致の推進</p> <p>二 再生可能エネルギーの推進</p> <p>一 被災地住民に対する支援</p>	<p>九 安全・安心の確保 高等特別支援学校の整備 「とちぎまるショップ」の効果的な活用 安全・安心の確保</p> <p>八 安全・安心の確保</p> <p>七 安全・安心の確保</p> <p>六 マスコットキャラクターを活用した県のイメージアップ</p> <p>五 地域医療体制の整備</p> <p>四 合併推進に関する県の対応</p> <p>三 企業誘致の推進</p> <p>二 再生可能エネルギーの推進</p> <p>一 被災地住民に対する支援</p>	<p>九 安全・安心の確保 高等特別支援学校の整備 「とちぎまるショップ」の効果的な活用 安全・安心の確保</p> <p>八 安全・安心の確保</p> <p>七 安全・安心の確保</p> <p>六 マスコットキャラクターを活用した県のイメージアップ</p> <p>五 地域医療体制の整備</p> <p>四 合併推進に関する県の対応</p> <p>三 企業誘致の推進</p> <p>二 再生可能エネルギーの推進</p> <p>一 被災地住民に対する支援</p>
--	--	--	---	---	---	---	---

注( )は所属党派  
(とちぎ自民党) とちぎ自民党議員会  
(民主・無所属) 民主党・無所属クラブ  
(みんな) みんなのクラブ  
※は代表質問  
裏面の「本会議質疑・質問から」に掲載している  
質問項目は、太字で表示してあります。

### 第308回定例会 本会議質疑・質問から

主な質疑・質問の要旨と、これに対する知事など執行部の答弁の要旨は次のとおりです。

#### マスコミキャラクターを活用した県のイメージアップ

**問** 来春オープンする「とちぎまる」のPRも今後県内外の様々なイベントにおいて本県をPRしてきた知名度を活かし、「とちぎまるくん」を県の統一マスコミキャラクターに登用し、引き続き県のイメージアップに努めていくべきと考えますが、知事の考えを聞きたい。

**答** スポレク終了後に「とちぎまるくん」を本県の統一マスコミキャラクターとして位置付けた上で、元気な「とちぎ」のシンボルとして、引き続き様々な場面で活用を図りながら、なお一層、イメージアップやブランド化の推進に努め、「とちぎまるくん」と一緒に「有名有力県」を目指していく。

#### 国際防災拠点都市構想

**問** 今回の震災を通じて、平時から、ひともの情報を集め、物流拠点としても機能し、また、災害が発生した場合には、救助や支援の中心となり、さらに国の防災機能のバックアップをも担う機能をもつ国際防災拠点都市を本県において構想すべきと考えている。この提案について知事の考えを聞きたい。

**答** 国際防災拠点都市構想については、民間の生産、流通機能の活用も視野に入れた新たなバックアップ機能についての提案と受け止めている。

引き続き国の検討状況や、この度の震災に係る経験や課題を踏まえた広汎な議論の推移を注視するとともに、本県の地理的優位性等について、様々な機会を通じて情報発信にも努めていく。

#### 新しい広報活動としてのツイッターの提案

**問** 短文投稿サイト「ツイッター」を利用して、県ホームページの更新状況やイベントの告知、災害情報の配信等ができる。県は、新たな広報媒体の積極的な活用について柔軟に対応すべきと考え。タイムリーで的確な県政情報の提供のため、ツイッターを利用して新しい広報の展開を本県も導入すべきと考えるが、県の今後の姿勢を聞きたい。

**答** 国や自治体において民間の情報発信サービスの活用が盛んになり、県ではこれらの広報媒体としての有効性やリスク等を総合的に勘案して判断し、メールマガジン等には有効活用を図ってきた。県としては、正確な情報発信の観点から、ホームページを第一に活用し、ツイッターの利用については今後検討していく。

#### 廃棄物対策

**問** 栃木県全体の産廃最終処分場のうち約九割が那須地域に集中している。そこで、一定地域に設置できる産廃処理施設の総量を規制するといった県独自の対策を講じるべきである。また、東日

本大震災により、放射性物質に汚染された廃棄物が埋め立てられる心配もある。県は、安全対策をどのように講じていくのか、知事の考えを聞きたい。

**答** 県では、稼働中の最終処分場から1km以内への新たな最終処分場の設置を規制している。併せて、処分場の総量を規制する基準の創設などを国に要望している。また、通常の立入検査に加え、仮置場からの搬出時や埋立処分時において、必要に応じ空間放射線量を測定するなど、適切な措置を講じていく。

#### 医療の充実と地域医療再生計画

**問** 県は六月に、本県の医療課題の解消につながる事業を盛り込んだ、栃木県地域医療再生計画案を国に提出したが、百二十億円の交付金の満額確保は厳しい状況にある。交付金が減額された場合、計画がもたれることになった事業について、県はどのように対応する考えなのか聞きたい。

**答** 地域医療再生計画案に盛り込まれた事業は、いずれも本県の安全安心で良質な医療の提供や医療課題の解決に資する重要なものである。交付金が減額されたことにより、事業によっては、その実施が困難となることも想定されるが、できる限り国庫補助制度を活用するなどして、当初の目的が達成できるよう、今後、関係者と十分協議していく。

#### 医師の確保

**問** 本県の医療は県外医学部医局からの医師派遣なしには考えにくい状況である。県では医師の確保にどのような取り組みをいくのか聞きたい。

**答** 今年度は、地域枠の医学士、研修医及び医師確保コーディネーター等による「地域医療ワークシヨップ」を開催し、将来の地域医療の担い手としての意識醸成やネットワークづくりに努めた。今後は、県内外の医師派遣大学との連携協力関係を一層強化するとともに、研修医等が実践的な臨床技術を習得できるシミュレーション設備の整備や、研修医の多様なニーズに対応できる臨床研修プログラムの研究開発等による魅力ある病院づくりへの支援など、引き続き、全力で医師の確保と県内定着の促進に努めていく。

#### 少子化対策としての不妊治療及び不育治療に対する支援

**問** 多くの夫婦が不妊症や不育症に悩んでいる。体外受精や顕微授精といった不妊治療やヘパリン療法などの不育治療は医療費の適用外であるため、経済的理由から治療をあきらめたケースもあると聞く。こうした夫婦を支援することが少子化対策としても重要と考え、どのように支援していくのか聞きたい。

**答** 不妊専門相談センターで産婦人科医などによる心理面を含めた相談支援等を行っているほか、不妊症の治療については助成制度を設けて経済的負担の軽減を図ってきた。一方、不育症治療については国の医療保険適用についての検討状況を注視していく。県としては、今後とも、正しい知識の普及や相談員研修の強化などによる相談支援体制の充実に努めていく。

#### 観光地の活性化

**問** 東日本大震災・福島原発

事故による風評被害等には、オール栃木の体制で施策を展開していく必要がある。そこで、観光関係業界や農業、商工関係団体等と、栃木県の観光立県の理念を明確にして、一致協力していく体制づくりを行うべきと考え、知事の考えを聞きたい。

**答** 今回の原子力発電所の事故のように、未曾有の事態に的確かつ迅速に対処するためには、商工関係団体や農業関係団体、県内金融機関など、県内の各界が一致協力して、オール栃木の体制で取り組んでいく必要があると痛感している。

#### 放射性物質が検出された溶融スラグの保管・処分

**問** 下水道資源化工場の溶融スラグから放射性物質が検出された。県浄化センター等への移送・保管が計画されており、その喫緊の対応と今後の方向性を聞きたい。また本県は管理型最終処分場がなく今後さらに多くの困難な事態も予想される。全額賠償が可能かと思うが、現時点の見解を聞きたい。

**答** 国へ広域的な調整を図るよう強く要望しているが、明確な方針は示されていないため、丁寧な住民説明を行うといった安全管理を徹底し、県内の下水処理場での一時保管を始めた。更なる場所の確保に向け、関係市町と早急に協議する。また、対応に必要な経費は関係法令に基づき賠償請求する。今後とも関係者の理解を得つつ利用に支障が生じないよう全力を挙げ取り組む。

#### 学校における放射線の理解促進

**問** 福島第一原発事故後、放射性物質に係る情報が氾濫する中、正しい知識を身につけることが重要である。放射線が身近な問題となっている現状を考えると、小学校でも発達段階に応じた、日常生活に結びついた授業を実施すべきだ。リスクコミュニケーションの観点も考慮し、小中学校それぞれで放射線の正しい理解を深める授業を実施すべきと思うが、県の考えを聞きたい。

**答** 今回の事故を受け、文部科学省から副読本が年内に全小中高校に配布される予定で本県でも有効活用する。研修会などを通して、各学校の指導充実に図り、近隣に原子力施設が立地する県として、放射線に対するリスク管理も含め、子どもたちが判断力を高める場としたい。

#### 来春の高校生の就職対策

**問** 来春卒業予定の高校生の七月末現在の求人倍率は、全国平均では、依然として一倍を下回る厳しい状況である。高校生が、社会の一員として新しい一歩を踏み出すと同時に大きな挫折を味わうことは、社会としても大問題である。そこで、県では、本県における高校生に対し、今後どのような就職対策を講じていくのか聞きたい。

**答** 学校の取組を支援するため、県立高校三十六校に就職指導員を配置するとともに、六月には労働局や産業労働観光部と連携し県内経済五団体に対し雇用の要請を行った。また、栃木県産業教育振興会を通して約八百社へ、高校生採用の拡大をお願いし、再度、経済団体に出向き直接要請を行っていく。

### 第309回 県議会定例会の開催予定

第309回定例会は、下記の日程で開催する予定です。本会議や委員会はどなたでも傍聴することができます。また、本会議（質疑・質問）については、とちぎテレビ、栃木放送（ラジオ）、インターネットで生中継されます。

月 日	内 容	開始時刻	月 日	内 容	開始時刻
11月30日(水)	本会議(開会・議案上程)	午前10時	8日(木)	常任委員会	(予備日)
12月 1日(木)	議案調査		9日(金)	特別委員会	午後1時30分
2日(金)	本会議(質疑・質問)	午前10時	12日(月)	検討会	//
5日(月)	//	//	13日(火)	議会運営委員会	午前11時
6日(火)	//	//	14日(水)	本会議(採決・閉会)	午前10時
7日(水)	常任委員会	午後1時30分			

詳細は、県議会事務局議事課 (TEL 028-623-3761) までお問い合わせください。

### 県議会広報テレビ番組のお知らせ

「県議会へようこそ」（とちぎテレビ）を通じて、県議会の動きなどを皆さまにお届けしています。番組内容は次のとおりです。ぜひご覧ください。

◎「県議会ハイライト」

第3回 12月定例会の本会議質疑・質問、委員会・検討会の活動状況など

本放送 1月24日(火) 午後8時～8時30分

再放送 2月 5日(日) 午後0時～0時30分

